



第2号
2012年10月発行

こんにちは、QWRCです。すっかり秋っぽくなつてきましたねー。秋と言えば芸術の秋? 食欲の秋? スポーツの秋? それぞれの秋を満喫してくださいね★関西の秋と言えば、今年もあります、関西レインボーパレード。今年もQWRCの皆と、カラフルの皆と一緒に参加します。「1人じゃちょっと参加しにくいなあ」という人も、「沢山の人と歩きたい!」という方も、是非一緒に歩きましょうね。詳細はカラフルのお知らせブログから確認してください。

リバティおおさかを 知っていますか?



みなさん、リバティおおさか、大阪人権博物館をご存知ですか? 大阪市浪速区のJR芦原橋駅から歩いて5分、市営住宅の中にずっと現われる建物がそれ。1985年の開館以来、部落問題を初めてとして、様々な被差別者やマイノリティ問題の資料を収集・保存し、啓発のために展示してきた貴重な博物館です。こうした人権問題そのものを幅広く扱う博物館は世界的にもとても希少で、また関西における部落問題や人権教育の普及のために、大きな役割を担つてきました。

しかし、現在このリバティおおさかは「存続の危機」に立っています。今年春に同博物館を視察した大阪市と府代表が、「現在の市・府政の考え方には則していない」として、来年度補助金の全額打ち切りの方針を決めたからです。

QWRCでは、日常生活の中で普通無視されがちな、女性や性的マイノリティの問題を丁寧に社会へと訴えかけてきたリバティおおさかが、これらも存続してくれることを願つて、「リバティおおさか存続のための陳情書(*1)」に賛同しています。そして今回の特集では、このリバティおおさかどのように女性や性的マイノリティの問題を取り上げ、また当事者が自らの歴史を語る権利も尊重しながら、こうした展示を作りあげてきたのか、それを調べてみました!

マイノリティを展示すること —リバティおおさか学芸員、松永真純さんに聞く

◆もともとリバティおおさかは、部落問題を中心とした人権問題の資料館だったと聞いていますが、今では多様なマイノリティの問題を常設展化しています。テーマとする人権・差別問題をそのように広げられてきた経緯についてお聞きしたいのですが。

松永

リバティおおさかは、大阪市内の被差別部落の中に小学校の跡地を利用して設立されました

が、最初は、部落問題を中心のテーマに扱っていました。そして、時代が下るにつれ人権問題のテーマが広がりを見せてきたこともあり、95年の第1回目リーコーナルでは、多くのマイノリティ問題を新たに取り上げ常設展示することになりました。例えば、民族問題では、アイヌ、在日、沖縄。性の問題では、女性問題。身体に関しては、障害、公害、病といった形

で面白かつたし、刺激になりました。楽しめたし、学ぶことが多かったです。

松永

僕個人としては、性的マイノリティの

イノリティの当事者をお呼びしたりしていく当事者団体との繋がりができていましたし、また当事者団体からも、リバティの方に性的マイノリティの問題に取り組んでほしいと、資料の寄贈などの協力をしていただきました。

僕個人も、それ以後当事者団体の集いに参加

させてもらつたりして、つながりができるようになりました。2003年にはそうしたつながりを活かして、「性的少数者の現在」という企画展を行なうことができ、2005年2回目のリニューアルに際して、性的マイノリティの展示を常設化する準備を整えていました。

◆どのような経緯で性的マイノリティの問題に取り組まれるようになったのですか?

*1) <http://blog.zaqqne.jp/20120529r/article/10/>

カラフル

偶数月第2土曜14:00~16:00

大体23歳以下のLGBTや「そうかも?」と考えてるユース向けおしゃべり会。参加費無料。
11月にはみんなで関西パレードに参加します★
<http://colorful.qwrc.org>

QWRC デー&ナイト

毎月開催。誰でも参加OKのオープンデー!
特にテーマは設けずに、お話ししています。
(参加費500円:1ドリンク+お菓子)

デー: 第3(土) 14:30~17:30

ナイト: 第1(金) 19:00~22:00

僕自身も障害をもつ当事者という立場にいますが、ヘテロ男性の世界にじつぶりとはなり、その価値観を吸い込んで生きてきました。こんな体である僕のことを好きになる人はいない、と思って、結婚や恋愛を自ら遠ざけていたんですが、考えてみるとそれは結婚や恋愛が前提になっていたんだと思います。けれど、そうではない、結婚や恋愛の形は一つではなく、こうでなければならぬといふものはないこと、結婚や恋愛との距離の取り方、そうしたことが性的マイノリティの中でも話されていることに、大きく刺激をうけることができたんです。性の問題の当事者として生きている人たちの語りの内容は、これだけ違つか、と思いました。

◆2005年の性的マイノリティの常設展化で気をつけたことはありますか？

松永 やはりLGBT、性的マイノリティは、内部でもそれぞれ違う存在であるということですね。性的マイノリティとひとくくりにされるけれど、当たり前ですがそれぞれが違う存在です。乱暴にひとくくりにすることなく、どこに偏りがあり、どこに男／女の違いがあるのか、といったことを考えました。

また、どれだけ当事者の人に協力してもらつ

ことができるかも考えました。展示案の段階から見てもらつたんです。どのマイノリティのテーマでもそろですが、展示自体が当事者の協力の下で成り立っています。今までは、障害者の問題でも、教育や労働、生活など、常に周りの健常者によつて決められてきました。そういう経緯があるから、博物館が勝手に代弁してしまえるのか、博物館も主体性をもちつつ、しかし代弁できるのかどうかを考えました。そのため、当事者の話を聞きながら、信頼関係を築いていったんです。歴史の資料の蓄積も大事ですが、人との関わりが大事なんで、資料に対するキャッシュも当事者に書いてもらつたりしました。

います。女性問題だと、1995年の1回目のリニューアルでは、女性史、女人禁制、家制度や性別役割分業などを取り上げました。2005年では、新たに焦点を当ててきた大きな問題として「性暴力」を扱つたりしました。また、ウーマンリブなど、当事者の主張にも焦点を当てた。それはやはり、誰が語るのか、ということが現代的な問題になつてきたからでもあります。

こうした博物館は、国内でも他にありません。唯一のもので、世界にもないと思います。移民など個別のテーマに則した博物館はあります、人権をそのままテーマに掲げた博物館は唯一のものです。

◆センシティブな問題ですが：知事や市長が見学に来られた。

松永 はい。2008年の視察のとき、展示を変えて子供向けにわかりやすくすべきだと、言われました。それで、展示もリニューアルしました。そこで、展示もリニューアルしました。

◆最近は学校や教育関係のプロセスへの働きかけも盛んみたいですね。

松永 教育サービスという形で、テーマを選んでもらつて話したり出前授業をしたり、ということが増えましたね。

現年、リバティとしては、いろいろなグループや個人に応援してもらひながら、行政に公的な支援を求めていくことと共に、サポート、ボンサーカードをつくり、自主運営できる体制をつくつていきます。

しかし、子供たちの啓発のために解説や授業を積極的に進めてきました。学校で学んできた問題の総仕上げとして使われる場合もあります。これだけいろんなテーマが展示されているので、広く差別に関わる問題を学ぶことができるんですね。それぞれの学校の課題にあわせて、使ってもらつています。リピーターになつてくれる学校も増えましたし、先生にも得られるものが大きいと思っています。

また最近は働く権利、という側面も重要な側面も重要だと考えています。例えば、人権問題＝在日問題や障害者問題と思つてしまい、自分の権利に関わる問題だとは思えていなかつたりする。自分の権利をよく知ること、それを守る方法を知つておくことがとても大事ですが、これまで人権教育のテーマとしては取り上げられずにきていました。権利には、自分と他人の間の線はありません。他人の権利の侵害に声をあげることが、同時に自分の権利を守ることに繋がつてゐるはずです。

(取材／しろ・戸梶)



QWRCさん

QWRCさんは大体白色と思われますが、実は白い服を着ていて本体は何色かナゾです。

モーっ

?

電話相談

LGBT当事者や周囲の人の電話相談。恋愛・セックス・人間関係などお気軽にお電話ください。

毎月第1月曜 19:30～22:30

06-6377-5447

英会話教室 QWEEN

毎月第1・第3日曜
18:00～19:30
参加費 500円

hello!

He だと She だと 彼氏とか彼女とか、決めつけられないで 英会話がしたい！

都合によりお休みや日程が変更する場合があります。
「QWRCスケジュール表」を確認のうえ、ご参加ください。

QWRC(Queer and Women's Resource Center)

〒530-0015 大阪市北区中崎西 1-1-7
トーカンマンション東梅田 408
mail : info@qwrc.org
URL : <http://www.qwrc.org>
TEL&FAX : 06-6374-0488

地下鉄谷町線
中崎町駅下車
4番出口より
徒歩1分

会員募集中！

QWRCでは運営を支えてくださる会員を常に募集しています。年会費1万円。詳しくはサイトかメールにて。